



年頭所感

一般財団法人北海道開発協会会長

町野和夫

明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、北海道ボールパークの開業、アジア初のリアル開催となったアドベンチャートラベル・ワールドサミットなど、新たなプロジェクトや世界的なイベントにより、北海道の魅力が国内外に発信され、北海道に注目が集まりました。また、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同様の5類に移行され、コロナ禍で制限されてきた社会・経済活動は正常化に向け動き出し、北海道経済も観光需要が増加するなど回復の兆しが見られます。

足下では、国際情勢が厳しさを増す中、長期化するエネルギーや原材料などの価格高騰や30数年ぶりの円安水準、さらには人手不足などが大きな課題となっています。特に、人口減少・高齢化が全国に先んじて進んでいる北海道においては、産業や地域社会の担い手不足による影響が懸念されます。一方で、次世代半導体製造拠点の整備が始まるとともに、ゼロカーボン北海道の推進、北海道新幹線の札幌延伸など、北海道の有するポテンシャルを活かし、経済の活性化と持続的な発展につながっていくことが期待されます。

政府では、全国に10年先んじて進む人口減少や広域分散型社会の課題を乗り越え、北海道の価値を最大化するために、多様な主体と共に北海道の未来を創るという中心的メッセージを込めた、第9期となる北海道

総合開発計画の策定を目指して議論が進められています。

北海道開発協会といたしましても、新たな時代の要請を踏まえた北海道開発の推進に寄与できますよう、産学官民と連携しながら地域活性化に資する調査研究、広報活動、研修会の開催など積極的に実施してまいります。

調査研究では、働き方改革を背景に人手不足に直面している地方交通や物流現場の取り組みを調査するとともに、北海道が将来に渡って食料供給や脱炭素社会への貢献等の役割を担っていけるよう、人口減少が進む地方自治体の実情に即した生活関連サービスの享受や公共施設整備等にかかる課題と対応について調査を行っています。また、防災など身近な生活の安心に不可欠な自治会など地域コミュニティの発展方策や廃校を活用して地域に活力を呼び込む取り組みについて調査するとともに、多様な市民団体等の地域活性化活動を支援しています。さらに、北海道のブランド力向上に資する食関連産業の取り組みや地域資源を活用した持続的な観光地づくりについて調査しています。これらの研究成果については、当協会発行の月刊広報誌「開発こうほう」に分かりやすく紹介していきます。

結びに、新しい年が皆さまにおかれましても希望の年となることを祈念しまして、新年のご挨拶といたします。

